

「チームロッテルダム」

ロッテルダム日本人学校長 小林信行

2020年4月に校長に就任しました茨城県出身の小林信行です。茨城県は、筑波山や霞ヶ浦などの自然に囲まれた緑豊かなところです。また、つくば市にはJAXAなどの日本有数の研究機関が集中しています。茨城県は、全国魅力度ランキング7年連続の最下位ですが、「自然」と「科学」が調和した魅力ある県だと自負しております。

私は、これまで茨城県の教員として中学校2校、小学校3校に勤務してきました。その他青年海外協力隊としてサモアで柔道の普及活動、そしてテヘラン日本人学校にも勤務してきました。これらの経験をこのロッテルダム日本人学校で少しでも生かしていきたいと思っています。よろしくお願いたします。

さて、日本人学校の教育の一つに日本人としてのアイデンティティーの育成があります。これは、国際性の根本となるものです。例えば、「生真面目さ」「規律を守る」「和を尊ぶ」などです。それらは、今までに日本で起こった大きな災害やワールドカップなどのスポーツイベントの中で示され、海外からも賞賛を受けてきました。私はこの未曾有の新型コロナ危機に対してもそのアイデンティティーを見せる時だと思っています。医療機関の人々の頑張りに教育者としてどう答えるのかが問われていると感じています。その答えは、「私たち教員は教育でこそ貢献すべきである。」と思っています。つまり、「子どもの学びを止めない」です。

私は現在他の新派遣の先生4名とともにいまだ日本にいますが、ロッテルダムにいる教職員とともにオンライン授業や学校再開の準備をしています。この人的にも物的にも限られた教育環境の中でいったい私たちは「何をめざすのか?」「何ができるのか?」「それをどうやるのか?」を日々考え、まずは、オンラインで子どもたちをつなぐことから始めたいと思います。次に、学級活動から教科教育へと進めていきます。私もつい1ヶ月前は、FacebookもZoomもやったことはありませんでした。しかし、4月1日からまったなしで、オンラインでの職員会議が日本とオランダをつないで始まりました。今やっと慣れてきたところです。

日本も世界もこの新しい新型コロナウイルスという新しい課題にとまどっています。しかし、これこそ奇しくも2020年実施の新学習指導要領の中で示された問題提起でした。そこに込められた思いは、「これからの社会が、どんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創っていききたい。」です。

通常、この状況下では学力の遅れ、つまり教科教育をどう進めるかに関心がいき不安になりま

す。私も最初はそうでした。しかし、それは「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動する力」を育成することで克服できると今は考えています。

そこで、私たちロッテルダム日本人学校のオンライン授業のねらいは、まず、「子どもたちの心身の健康の維持」です。

次に、「自ら学ぶ力の育成」(自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動する力)です。そして、最後に「教科教育による学力の育成」と考えています。

最初はうまくいかなかったり、失敗も多いことと思います。私たちはそこから学び、修正し、この限られた教育環境の中で何ができるかを考え、次のステップへと進んでいきます。まさに、「自ら学ぶ力」なのです。

最後に、世の中は、世界は、この新型コロナウイルスへの「不安と恐怖」による行動が広がっています。そんな中でも、私たちは「夢と希望」による行動をめざしたいと考えています。つまり、外出自粛や自宅待機、そしてオンラインでの学習等の忍耐や努力は、新型コロナ危機が過ぎ去ったアフターコロナの世界の明るい未来につながっていると。また、このピンチを新しい学力「自ら学ぶ力」を育成するまたとないチャンスにつながっていると。

子どもたちと私たち教職員、そして保護者や JCC の皆さんを含めた「チームロッテルダム」でこの危機を乗り越えていきたいと思っています。ご理解とご協力を切にお願いしまして、私からのあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。